

# 事業報告書

第4期

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

一般財団法人三光丸クスリ資料館

## I. 一般財団法人設立後の状況

平成 26 年 12 月 8 日に一般財団法人三光丸クスリ資料館の設立登記を行って以来、今回で 4 期目の事業報告となる。

今期の事業方針は、昨年度同様、公益財団法人への移行を視野に入れながら、①「見学者数増加、見学者の年齢層拡大」および②「出張展示、講演など積極的な館外活動の実施と、広報活動の充実」③「資料館活動による収入源確保」④「配置家庭薬、漢方薬、和漢薬および中世大和の国人越智氏に関する調査研究・資料蒐集および情報公開」⑤「文化支援・助成事業として社員研修棟・直心庵の活用」に努めるというものであった。

以下、本年度の事業実績を列挙する。ご就任

## II. 平成 29 年度事業実績（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

### 1. 資料の蒐集、保管、公開

#### (1) 施設の開館状況

開館日数：266 日（昨年度 267 日）

入館者数：1,139 人（前年度比-174 名）

入館者のうち、10 人以上の団体見学者数は 954 名であり、全体の約 84%を占めている（前年度は 73%）。団体の多くは小・中・高校、大学の学校関係および高齢者のサークル、ハイキング、ウォーキングなど。尽力持参

#### (2) 常設展示

##### まほろば館

※ 展示内容は昨年度とほぼ同じだが、受付カウンターを整理し、書類棚やスタンドを設置してパンフレット、資料を手に取りやすくした。また、海外からの見学者増加に対応するため、展示解説の一部に英語表記を加えている。なお、英語のほか、中国語（簡体字、繁体字）、ハングル文字を準備中。

##### こころの館

※ 以前、御所市の薬事研究センターから寄贈された製丸機、混合機（いずれも昭和期か）を展示中。

#### (3) 企画展示

##### 企画展示室

企画展示コーナーでは、平成 29 年 4 月より「得意帳が語る明治～大正時代の世相と人々の暮らし」と題し、当館が所有する明治～大正期の得意帳に記された配置員の“つぶやき”を紹介している。

### 2. 普及啓発事業

三光丸クスリ資料館では、一般財団法人移行前から、地域社会への貢献を目的とした事業を積極的に展開してきた。このような活動は、江戸時代以降、長年にわたり大和の配置売薬業界を牽引してきた「三光丸」に課せられた重要な役割と考えるものである。主な活動は以下のとおり。

### (1) 主な施設内活動

- ① 平成 29 年 5 月の GW 期間中（5 月 3 日～7 日）に資料館を開館。来館者 15 人。
- ② 平成 29 年 8 月の土・日に 4 日間の「夏休み特別開館日」を実施。夏休みの自由研究を目的として訪れた親子連れには、資料提供のほか粗品を進呈。同期間中は親子連れ 18 人（うち小・中学生 9 人）が来館。
- ③ 平成 29 年 9 月 11 日（月）奈良県薬務課の要請により、台湾人ブロガーの見学・取材受入。目的は“奈良の薬等の販路拡大”
- ④ 平成 29 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）：直心庵にて陶芸家東川和正氏の作品展「玄彩展」を開催。
- ⑤ 平成 29 年 11 月 19 日（土）～20 日（日）：例年どおり「関西文化の日」に協賛、資料館を開館した（2 日間の来館者 20 人）。

### (2) 主な施設外活動

- ① 平成 29 年 7 月 13 日（木）：高取町の光雲禅寺において、四条畷市「楠木正行（くすのきまさつら）の会」（25 人）と歴史交流会を開催。南北朝時代における越智氏、米田氏と楠木氏の関係について、米田徳七郎代表理事と浅見資料館長が講演し、同会と情報交換を行った。
- ② 平成 29 年 9 月 4 日（月）～5 日（火）：ポーランド国ワルシャワ市薬博物館において改修記念式典が開催され、当館から友好とお祝いのしるしとして、「三光丸の看板」を期限付きで貸し出し。
- ③ 平成 29 年 10 月 29 日（日）～30 日（月）：近畿経済産業局の勧めで「第 2 回関西産業観光博覧会」に出展。会場は関西国際空港駅コンコースで関西の 16 地域から 28 団体が参加。4 日間の来場者は約 8,000 人（主催者発表）。
- ④ 平成 29 年 11 月 4 日（土）～12 月 24 日（日）松原市のふるさとびあプラザ特別展「竹内街道と松原-街道を歩き交う人々-」に江戸時代の得意帳、『仲間取締議定書連印帳』、引札、柳行李、写真などを展示資料として貸し出し。
- ⑤ 平成 29 年 11 月 26 日（日）：松原市ふるさとびあプラザにて、クスリ資料館長が記念講演を行なった。演題は「大和のくすりの四方山話」

### (3) 広報活動

- ① 平成 29 年 7 月 31 日（月）奈良県教委の依頼により「ならの教育応援隊」（大和高田市・奈良県産業会館）に出展、教育関係者 250 人に三光丸クスリ資料館の活動状況を紹介。
- ② 平成 29 年 8 月～9 月：昨年に引き続き、インターネットミュージアムのミュージアムキャラクターコンテスト『ミュージアムアワード 2017』（丹青社主催）にさんこう丸をエントリー、投票結果は 116 票を集めたが入賞ならず（昨年は 10 位入賞）。
- ③ 平成 29 年 12 月 1 日（金）NHK 奈良放送局『ならナビ』の取材・撮影（リポーターは西垣キャスター、放送は 12 月 8 日（金）の 18 時 30 分～19 時）。
- ④ クスリ資料館の開館状況および各種イベント、近況報告等について、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなど SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）を通じて随時情報公開を行なった。

### 3. 学術調査研究事業

継続事業として「大和売薬」「大和の薬」および三光丸の米田家、越智氏の歴史に関する調査研究を行なった。

大和の地では、古くから東大寺、唐招提寺、西大寺、興福寺などの有力寺院において庶民救済を目的とする“薬づくり”が盛んに行われてきた経緯があり、中でも藤原氏の氏寺として栄えた南都興福寺では、多聞院と呼ばれた塔頭（たっちゅう）において、医薬の知識を備えた僧侶たちがさまざまな薬を処方していたことがわかっている。

越智氏、米田氏は大和国における他の国人領主と同様、興福寺とのつながりが深く、家伝薬の製法も同寺から伝えられた可能性がある。

したがって、中世大和国における越智氏の動向を調べるのがすなわち、「大和の薬」の歴史研究につながるため、当館ではかねてよりさまざまな文献史料をもとに、越智氏に関する調査研究を継続的に行っている。以下、年度内の調査研究活動を挙げる。

- (1) 明治以降、昭和初期に至る得意帳の内容を精査し、当該期の得意先回りの実態を調査した。得意帳からは、取扱商品の種類と価格、代金の回収状況、回商頻度などのほか、得意先の分布状況、家族構成、健康状態などの情報も得ることができる。また、得意帳にはしばしば、次回担当者への申し送り事項や顧客とのやりとり、日々の雑感などが生々しく記されており、当時の世相や人情なども垣間見ることができる。このような資料は、日本人の生活史をたどるうえでたいへん貴重なものであり、研究成果を広く公開することが私たちの使命と考えている。
- (2) 『大乘院寺社雑事記』『言継卿記（ときつぐきょうき）』など、中世の第一級史料をもとに、越智氏、米田氏に関する調査研究を継続的に行った。
- (3) 明治から昭和初期までに製造販売されたさまざまな配置薬に関して調査し、資料の写真撮影および画像データの蓄積作業を行なった。

### 4. 課題など

- ※ 一般財団法人の設立以来、懸案事項となっていた「入館料の設定」については、残念ながら年度内に実施することができなかった。資料館活動による収入源確保は、将来にわたり安定的な活動をする上で必要なことであり、公益認定の進捗に歩を合わせながら、実現にむけて努力していきたい。
- ※ 平成24年度以降、奈良県では「漢方メッカ推進プロジェクト」と題し、薬用作物（生薬）の生産拡大と、関連する商品・サービスの創出まで一貫した体制の構築に力を注いでいる。これにともない、「大和のくすり」に関する貴重な資料を多数所蔵する当館の存在意義も大きなものとなっている。今後は、資料の調査研究成果を公開するなど、情報発信源としての機能を高めていきたい。

以上